opusdei.org

観想的な心の静寂: 「午後の仕事の時 間」と「夜の時間」 (3)

「夜の時間」は、私たち自身の最も深い部屋、つまり「神と魂との間で極秘な事柄が行われる場所」に入ることを助けてくれます。

2025/01/31

これまでの記事を読む

静寂を味わう

DYAの学生寮が始まって2年が経っ た時、それまで若者たちの形成活動 のすべてを担っていた聖ホセマリア は、彼の子の何人かにこの什事を手 伝うよう依頼します。そのため彼 は、形成を与える準備を容易にし、 聖ラファエルの青年たちとの使徒的 活動にインスピレーションを与える いくつかのアイデアを取りまとめた 指針を書くことを決めました。そこ でこの学生寮で育むべき重要な特徴 の一つとして、沈黙への愛を挙げて います。「私たちの学生は、自分の 沈黙が祈りであり、仕事であり、他 者の休息であることを忘れないだろ う。夜のコメンタリーの後、翌日の ミサが終わるまで、大きな沈黙 (silencio mayor) が守られる」[1]。

(silencio mayor)が守られる」III。 聖ホセマリアは、この沈黙を規律や 秩序の問題としてではなく、翌日の 祈りとミサのための深呼吸と見なし ていました。「それは味わうものであり、不可欠なものとなる」[2]。

日によっては、私たちを動揺させる 出来事が起き、その意味を理解でき ず、不安や心配を抱えたまま眠りに つくこともあるでしょう。逆に、日 中の出来事に満足したり、喜びに包 まれて夜を迎えることもあるでしょ う。このようなことすべてを夜の時

ある哲学者は「人間のあらゆる不幸は、ただひとつのことから生じる。それは部屋の中で静かにとどまったいることができないと言いました。夜の時間は、私たち自身の最も深い部屋、つまりれたちぬとの間で極秘な事柄が行われるとぬり、「心の奥深くに、神が住るさば、「心の奥深くに、神が住

まうための内的な空間を作り出」します。「こうして神のことばはわたしたちのうちにとどまります。神への愛がわたしたちの思いと心に根づき、わたしたちの生活を力づけます」[5]。

したがって、この習慣はイエスとと もに生きる熱意を育む助けとなりま す。結局のところ、これが私たちが すべてを売り払って得た宝物なので す (マタイ13・44参照)。 心はその 孤独を必要とします。それは心を清 めるため、様々な束縛から解放する 唯一の情熱によって養うためです。 この理想は翌日の祈りとミサの中で 表現されます。長い間待ち望んでき たものが近づくと心は躍ります。同 じように、夜の時間に翌日待ち受け る神との〈約束〉への渇望を新たに することができます。その望みは単 なる「気が進む・進まない」といっ た次元を超えたものです。それは主 が私たちに与える恵みであり、私た

ちの在り方を形作るものです。この 時間が必要であると聖ホセマリが 感じたのもそのためです。それは、 神が彼の心に置いた、彼の人生のの 動力となる理想を養う機会だったの です。帰するところ、それはイエス 自身の姿勢と同じです。忙しいること を切望したのでした。

* * *

おそらくイエスは、ナザレの家でその沈黙の時の価値を学んだのでしまいまである。実際、福音書には聖ヨセんの言葉が一つも記録されていませんでしませんでして、その注意深い声を記した。そのできました(できました(できました(できました)。マリアは、起このできました(とができました。自分の子の誕生を取り巻ので、大田議な出来事も(ルカ2・19参

照)、神殿で息子を見つけたとき、 彼の答えが理解できなかったこともす (ルカ2・51参照)。聖母はこれら 可でを味わい、喜ばしいことでであるい。 喜ばして神が奏でるは30 年の隠れた時を経て初めて公事とと を始めました。その30年は仕事とと 大の時でした。その間についてエスと を始めました。その間についてエスと 大の時でした。その間についてエスと がは書き記しています:「神とと に愛された」(ルカ2・52)。

- [1] 指針、1935年1月9日、169番。
- [2] 同、注釈115番。
- [3] パスカル『パンセ』139番。
- [4] イエスの聖テレジア『霊魂の城』(Las moradas, I, n.14)。

[5] ベネディクト十六世、一般謁見 演説、2012年3月7日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/gogo-yoru-jikan3/(2025/11/21)